

人文社会科学部 博士前期課程 経済経営専攻

養成人材
企業や官公庁、非営利組織などで実際に働きながら、仕事の現場での諸問題について解決を図りうる実務界の知的リーダーの育成を教育研究上の目的とする。

学位授与の方針
人文学・社会科学の幅広い研究を基礎とし、知識基盤社会の知的担い手となる高度専門職業人、修士の学位を持つ社会人、日本・アジアの視点を軸にグローバルに活躍しうる人材を育成するため、所定の教育課程を修め、専攻ごとに求める以下の能力を身につけた者に修士の学位を授与する。

- 〈経済経営専攻〉
(1) 経済・経営・行政についての学識および理論的・実証的な分析能力
(2) (1)を活かした問題解決能力

- 教育目標
1 人文社会科学に関わる広い知見を修得する
2 経済・経営・行政に関わる基礎的な知識を修得する
3 経済・経営・行政に関わる基礎的な知識を修得と、それを応用・総合する能力を修得する
4 課題設定・自己解決能力および独創的な思考力を修得する

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4
1	English Skills I	1.To understand the basic knowledge about the foundation of communication in English 2.To express own opinions at academic settings and to perform facilitation skill at group discussion 3.To perform their understanding on how to manage classrooms or small seminars in English	○			
1	English Skills II	1.To understand essays as a part of academic writing that includes the knowledge about rhetorical terminologies and plagiarism 2.To understand different types of essays and its structures and functions 3.To perform your understanding by producing good essays, participating in discussion and making presentations	○			
1	異文化コミュニケーションワークショップ	Students are expected to apply basic theories and concepts to hands-on intercultural activities	○			
1	視覚文化と社会	「しよせん見かけ」「本当に大切なものは目で見えない」という考え方は、諸宗教の偶像崇拝禁止などから日常生活に至るまで、様々な場面で遭遇します。しかし人種の問題、ジェンダーの問題、さらに当の宗教の信仰心を高揚させる場面においても、視覚文化抜きにはほとんど成り立ちません。この授業では、この蔑まれながらも私たちの生きることの根幹に係わる「見るということ」の重い役割を自覚し、ご自身の研究に生かしてもらいたいと思います。講義後のディスカッション、学期末のレポート等で、到達の状況を確認します。	○			
1	ジェンダー／セクシュアリティと社会	ジェンダー論、セクシュアリティ論がなぜ必要とされ、どのように発展してきたのか、90年代以降のクィア理論も射程に入れ、それらの理論とその社会的意義について理解できるようになる。 また、それらの理論を応用して、多くの要素が複雑に交差した実際の社会的事象（時事問題等）を分析し、課題を説明できるようになる。	○			
1	文献資料調査実習 I	線装本（和装本、和本、漢籍）の書誌調査のスキルがある程度身につける。 更に進んで、その典籍のより深い探究が出来るようになる基礎知識を得る。	○			
1	文献資料調査実習 II	線装本（和装本、和本、漢籍）の書誌調査のスキルがある程度身につける。 更に進んで、その典籍のより深い探究が出来るようになる基礎知識を得る。	○			
1	English Presentation and Negotiation	This course is designed for students: 1. to understand what is needed for a better presentation/negotiation; 2. to understand the differences in persuasive communication style in Japanese and English; and 3. to get used to English communication.	○			
1	日本語運用演習	・論文の書き方に関するスキルを身に付け、自分の研究テーマについて日本語で論文を書けるようになる。 ・自分の研究内容を他人に伝え、発表することができるようになる。	○			
1,2	ミクロ経済学	ミクロ経済学の基本概念と、その現実問題への応用について理解する。		○	◎	
1,2	マクロ経済学	1980年代以降のマクロ経済学の特徴を理論的にサーベイすることができる。ルーカス・モデル、合理的期待形成、RBC等各種マクロ経済理論を独自に要約することができる。		○	◎	
1,2	数理統計基礎	高校程度の数学を出発点として、回帰分析や分割表を理解することまでを目標とします。		○	◎	
1,2	経営基礎	▶ 社会科学としての経営学の観点や研究の進め方についての理解を深めること		○	◎	
1,2	財務会計論	会計ルールの根底にある論理の理解を目標とします。これにより、現実の会計問題を評価することのできる能力が身につきます。		○	◎	

1, 2	言語メディア論	Webスクレイピングを用いて得たデータを元に、テキストマイニングの基本的な手法（ワードクラウドや、単語頻度の類似性に基くクラスタリングなど）による文書の分類などが行なう手法の習得。			◎		
1, 2	労働経済論	日本的雇用システムに関するテキストを例に理論的・実証的に検討する力を身につけ、自らの修士論文執筆に役立ててほしい。			◎		
1, 2	日本経済総論	マクロ経済学、ミクロ経済学、金融論などで履修する内容を、実際に過去の日本経済、財政、金融政策、金融システム、金融市場などの展開にあてはめ、1980年代半ば以降の日本金融経済の動態や構造変化を体系的に理解する。その上で、得られた知見を、日本経済が抱える課題の解決や今後の進むべき方向性について考える際のヒントとして役立てる。			◎		
1, 2	産業連関分析	本講義では、I-O分析の理論を把握し、その多面的応用を検討することによって、I-O分析への理解を深める。			◎		
1, 2	金融論	金融市場・金融機関に関する基礎知識を習得し、それに基づき金融に関して論ぜられるようになることを目標とします。			◎		
1, 2	金融工学への入門	実解析を使いこなせるようになる。			◎		
1, 2	証券分析論	証券分析の研究で使用される分析手法を習得する。また、実際の金融データ（株価指数・個別株など）を用いて分析を行う。データはこちらで準備します。			◎		
1, 2	経済政策論	日本経済の現状分析の手法、注目すべき指標等が何かを理解するとともに、日本の経済財政政策の決定過程を学ぶ。また東南アジアの経済発展のポイントについても習得する。			◎		
1, 2	日本経済史	近代以降の日本経済のあゆみや経済発展の特徴について理解を深める。			◎		
1, 2	国際経済論	国際経済学の基礎的な理論の理解を基に、主要国の経済動向と政策課題に加えて、グローバル経済を動かす貿易や投資等についての理解を深めることを目標とする。			◎		
1, 2	経営管理論	生産財メーカーはどのような戦略とビジネスモデルを実行することにより利益を獲得しているのかについて理解させる。			◎		
1, 2	経営戦略論	経営戦略論の先端の研究を知り、研究能力を高め、専門的な研究と経営実践のための知識と思考能力を身に付ける。一般的に流通している経営戦略のイメージとは違う、アカデミックな観点から経営戦略論を考えられるようになる。			◎		
1, 2	生産システム論	生産管理や生産システムに関する基本的概念を理解し、現代の新しい問題を分析できること。			◎		
1, 2	マーケティング論	市場の商品・サービスに対して、消費者の購入意向・支払意思額・推奨意向を高めるために、解決されていない問題を見つけ、仮説を立案し、それを実証することができる。			◎		
1, 2	サプライチェーン・マネジメント	・SCMに関する基礎理論を修得する。 ・ケーススタディを通して、企業がどのようにSCMをおこなっているか、そしてどのようにSCMを通して競争優位を築いたのかについて理解する。 ・学んだ知識を用いて、SCMの視点から身近な経済現象を分析する能力を養成する。			◎		
1, 2	雇用関係論	日本の雇用システムを正しく理解するために必要な理論と実態を学習し、各自の論文作成に応用する。			◎		
1, 2	経営財務論	本講義の目標は、企業金融論に関する基礎的な知識を習得することにあります。具体的には、赤字主体としての企業の立場から資金調達や投資、利益の分配などの意思決定を学びます。			◎		
1, 2	国際経営論	受講者が、国際経営に関する英文のケース（論文等）を分析することによって、ケース（論文等）の論理の流れや分析方法を理解し、国際経営の理論と実践を理解することを目標とする。			◎		
1, 2	比較経営論	アジアの企業経営について知識を得るとともに、アジアにおけるマーケティングについて進んだ知識を獲得する。 アジアの企業・市場を研究する研究者および企業の国際業務担当者として、本講義で得た知見を生かす。			◎		
1, 2	日本経営史	様々な時代の日本の企業経営に関する文献を読み込んだ上で、企業経営について議論する力を身につける。			◎		
1, 2	経営組織論	本授業の目標は、経営組織論の諸学説を古典から最新の議論まで理解することにあります。授業では、経営学の発生から近年まで時代順に経営組織論の主要学説を解説します。博士前期課程の大学院生として基本的な理論的知識の習得を最終的な目標とします。よって、基本的学説から応用学説まで幅広く扱う内容となっています。授業の方法は、担当者の解説講義を中心に行います。			◎		
1, 2	マネジメント・コントロール・システム	マネジメント・コントロールについて自分なりの見識を得る。			◎		
1, 2	コーポレートガバナンスと法	株式会社等における会社統治やファイナンスにかんして、その仕組みを理解して、基本的な知識を身につけること。会社法上の問題についてその法的解決の方法を考える力を養うこと。			◎		

1, 2	コーポレートガバナンスと会計	本講義では、会計情報の利用者と経営陣の利害の違いを意識しながら、現代の財務会計を取り巻く経済社会や環境を理解することを目的とする。 まず最初に情報利用者と経営陣のあいだに情報の非対称性が存在しない理想的な状況における会計を分析する。その後、情報の非対称性が生み出す逆選択（逆選抜）の問題をコントロールするうえで財務会計がどのように役立つかを理解するために、意思決定有用生アプローチ（合理的な会計情報の利用者にとって有用な情報を報告するという考え方）について学習する。最後に、財務報告をどのように利用することで、情報の非対称性の問題がもたらすモラル・ハザードの問題を軽減できるかについて学習する。				◎	
1, 2	財政学	労働政策、社会保険制度、生活保護制度といった政策・制度と、社会的排除、貧困、格差と平等といった社会的現実との関係を検討することにより、財政問題と直接・間接に結びつく領域についての洞察を深める。				◎	
1, 2	地方財政論	履修者が地方財政に関する様々な問題について考えることができるようになることを到達目標とする。				◎	
1, 2	政治経済学	政治経済学の基礎理論を理解する。				◎	
1, 2	上級政治経済学	政治経済学に関する学術論文を執筆する				◎	
1, 2	経済学史	(1)古典の正確な読解方法を習得する。 (2)資本主義社会の確立期の時代状況を理解する。 (3)疑問点を平明にまとめる能力を身につける。				◎	
1, 2	公共政策	社会安全政策を中心に、我が国の公共政策策定のプロセスを理解する。				◎	
1, 2	行政法理論	授業が終了したときに、みなさんが以下の知識や能力を身に付けることを目標にします。 ① 行政が普段どのような活動をしており、私たちの生活や企業活動にどのような役割を果たしているか、具体的な例をあげて説明できるようになる。 ② 行政のさまざまな活動がいかなる法に基づいて行われているか、具体的な例をあげて説明できるようになる。また、そのような行政活動にかかわるさまざまな法に共通するしくみについて理解し、説明できるようになる。 ③ 行政法に関する基礎的な知識を身につけることで、下記の参考書を使いながら自分でさらに深めた学習ができるようになる。				◎	
1, 2	地方自治論	自治の思想と理念、制度を理解し、自治現象を分析できるようになる。				◎	
1, 2	社会保障論	現代社会に生きる私たちの生活を支える社会保障制度の仕組みを理解し、今後の社会保障制度の在り方について主体的に考える。				◎	
1, 2	環境政策論	1. 国際レベルの環境政策の研究動向を自分で調べられるようになる。 2. 国際レベルの環境政策の分野の研究論文を読めるようになる。 3. 国際レベルの環境政策について自分で研究テーマを定めて研究を進めていく力を養う。				◎	
1, 2	都市計画論	都市が抱える諸問題とその流れを理解し、都市の持続的発展に向けた問題解決を考える力を身につけることができる。				◎	
1, 2	憲法	現代における憲法問題を自ら発見し、それに関する判例学説を適切に参照し、憲法学の論理に従って自ら解決策を提案できること。				◎	
1, 2	経済法	独占禁止法をめぐる法的問題を整理し、関連事例をとりあげながら、課題の考察を行う				◎	
1, 2	土地利用と法	土地制度の現代的課題について正確に理解し、自分の考えを示すことができるようになること。				◎	
1, 2	特殊講義「 」	※講義科目別に設定				◎	
1, 2	現代金融システム論	金融システムの基本知識と論点の理解により学生の興味のある分野の議論展開の基礎能力開発を目指す。				◎	
1, 2	日本の経済構造と金融	日本経済について、80年代後半から90年代にかけてのバブルの生成と崩壊、並行して進行してきたグローバル化、人口の高齢化・減少、現在進行している新しい技術の動き、Covid-19パンデミック等の大きな経済的ショックが、日本の実体経済と金融経済にどのような影響を与えてきたかを整理する。それを踏まえ、マイルドなデフレーションに繰り返し陥り、さらに最近になってなかなかインフレ率が高まらない原因を考える。その上で、パンデミック後の令和の時代の日本経済を展望する。				◎	
1, 2	金融リスク管理論	金融機関の経営管理（ガバナンス、リスクマネジメント、監査）の現状を理解し、今後の課題を考える。 わが国で始まったコーポレート・ガバナンス改革の動きに関しても実務的な視点で考察する。				◎	
1, 2	日本経済のマクロ分析	日本経済を対象とした実証分析の実例を用いて、実証分析のテーマ設定の方法や分析手法を学びます。また、実践的な計量経済分析能力を養成します。				◎	
1, 2	公共政策と現代企業経営	日本企業のグローバル化のための主要政策課題を考察しながら、グローバルビジネスの実態への理解を深めること。これを企業等の経営企画、海外事業の実務や調査・研究活動に活かすことを目指します。				◎	
1, 2	知的財産権総論	知的財産権制度の「入門編」として、基礎知識と背景、その活用等について、最近のトピックスも交えて考察し、履修者の「知的財産マインド」を育み、今日的な知的財産に関する問題への「視点」を持つことを目指します。				◎	

1, 2	日本経済の構造	マクロ経済学、ミクロ経済学、金融論などで履修する内容を、実際に過去の日本経済、財政、金融システム、金融市場などの動きにあてはめ、1980年代半ば以降の日本金融経済の動態や構造変化を体系的に理解する。その上で、その知見を、日本経済が抱える課題の解決や今後の進むべき方向性について考える際のヒントとして役立てる。			◎	
1, 2	日本の労働経済	日本的雇用システムに関するテキストを例に理論的・実証的に検討する力を身につけ、自らの修士論文執筆に役立ててほしい。			◎	
1, 2	アジアの産業連関分析	IO分析の基本知識を習得し、興味のある国のIO分析ができるようになる。			◎	
1, 2	アジアの経済政策	アジアの経済政策の課題を自ら発見しその対応策を考察できる力や政策をめぐる議論を客観的に評価できる力を身に付ける。			◎	
1, 2	日本の社会保障	現代社会に生きる私たちの生活を支える社会保障制度の仕組みを理解し、今後の社会保障制度の在り方について主体的に考える。			◎	
1, 2	アジアにおける経済社会開発	アジアの経済の実態とダイナミクスを理論的・実証的に理解する。その上で、アジア各国、地域が直面する様々な諸課題を検討し、今後のアジア、また日本と各国との関係について、考察を深める。			◎	
1, 2	アジアの経済発展	途上国経済を理論的に把握する。貧困の悪循環という概念を明確にし、経済成長のメカニズムを理解する。途上国の二重経済モデルを1つのシステムとして理解し、都市部と農村部間の労働移動のメカニズムを、ハリス＝トダロー・モデルを通じて理解できる。			◎	
1, 2	アジアの都市計画	都市が抱える諸問題とその流れを理解し、都市の持続的発展に向けた問題解決を考える力を身につけることができる。			◎	
1, 2	日本の地方財政	履修者が日本の地方財政に関する知識を習得し、地方財政に関する様々な問題について考えることができるようになることを到達目標とします。			◎	
1, 2	日本の憲政と憲法	現代における憲法問題を自ら発見し、それに関する判例学説を適切に参照し、憲法学の論理に従って自ら解決策を提案できること。			◎	
1, 2	日本の地方自治	自治の思想と理念、制度を理解し、日本における自治現象を分析できるようになる。			◎	
1, 2	日本における土地利用と法	日本の土地制度について正確に理解した上で、農地制度上の問題点について、検討し、自分の考えを示すことができるようになること。			◎	
1, 2	日本政治史	文献を読解し、自分の考えをもち、人と議論する力を身につける。			◎	
1, 2	国際取引と法	国際私法の基本概念及び仕組みを正確に理解し、国際契約の論点について概略を掴むこと。			◎	
1, 2	日本のマーケティング	市場の商品・サービスに対して、自ら問題を見つけ、仮説を立案し、それを実証することができる。			◎	
1, 2	日本企業のケーススタディ	様々な時代の日本の企業経営に関する文献を読み込んだ上で、様々な視点からディスカッションを行うことを通じて、企業経営を多面的に理解する能力を養う。			◎	
1, 2	日本企業の経営管理	生産財メーカーはどのような戦略とビジネスモデルを実行することにより利益を獲得しているのかについて理解させる。			◎	
1, 2	日本企業の管理会計	日本企業が提案・活用している管理会計システムであるアメリバ経営について、自分なりの知識を得る。			◎	
1, 2	アジアにおける日本企業	受講生は、アジアにおけるマーケティング戦略について基本的な知識を得るとともに、アジアに進出する日本企業の強みや弱み、展開可能性について洞察できるようになる。 将来、企業の国際業務担当者や、中小企業の海外進出を支援する機関、アジアの市場・企業を分析する研究者となる者にも有意義な授業内容を提供する。			◎	
1, 2	日本の雇用関係	日本の雇用システムを正しく理解するために必要な理論と実態を学習し、各自の論文作成に応用する。			◎	
1, 2	国際経営論	受講者が、国際経営に関する英文のケース（論文等）を分析することによって、ケース（論文等）の論理の流れや分析方法を理解し、国際経営の理論と実践を理解することを目標とする。			◎	
1, 2	経営組織論	本授業の目標は、経営組織論の諸学説を古典から最新の議論まで理解することであり、授業では、経営学の発生から近年まで時代順に経営組織論の主要学説を解説します。博士前期課程の大学院生として基本的な理論的知識の習得を最終的な目標とします。よって、基本的学説から応用学説まで幅広く扱う内容となっています。授業の方法は、担当者の解説講義を中心に行います。			◎	

1,2	国際マーケティング論	<p>グローバル・マーケティング分野に関し、主要な応用的分野の専門知識を習得する。また、自ら問題を設定し、自ら問題解決を行いうる能力、およびその成果を理論的な文章にまとめ発表する能力を育む。</p> <p>また、論理的・批判的思考力、情報収集能力、根拠に基づいた分析力、自らの主張や意見を形成し、発信する能力を習得することを目標とする。</p> <p>具体的には以下である。</p> <p>〔1〕 企業の世界展開のために行っている自身の経営資源と、自社が世界において直面する外部環境を見極めた上で、どの市場を標的とし、どのような方法で参入するのかということを理解し、企業が配置した拠点間の連携（グローバル統合・調整）を行っていくことに関する基本的概念を説明できるようにすること。</p> <p>〔2〕 本授業では今日の企業のグローバルなマーケティング活動を考察し、そこから実践的な諸課題について自ら考察できるようにすることを授業の到達目標とする。</p>			◎	
1	演習Ⅰ	基本的な研究姿勢をまなぶ			○	◎
1	演習Ⅱ	基本的な研究姿勢をまなぶ			○	◎
1	演習Ⅲ	基本的な研究姿勢をまなぶ			○	◎
2	演習Ⅳ	基本的な研究姿勢をまなぶ			○	◎
2	演習Ⅴ	基本的な研究姿勢をまなぶ			○	◎
2	演習Ⅵ	基本的な研究姿勢をまなぶ			○	◎